

お盆も過ぎ、暦のうえではもう秋ですが、まだまだ暑い日が続きそうです。秋には、さまざまな講演会やイベント等を開催いたします。ぜひご参加ください。現在会員登録数 2,406 人さま。次号は 9 月 20 日発行の予定です／

◆◆◆ 目次 ◆◆◆

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》この本読んだ？

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

《3》読書活動ボランティアのためのワンポイント 84

《4》行って来ました！

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

【1】お知らせ

● 「おはなしモノレール」参加者募集

大阪高速鉄道「万博記念公園駅」から「彩都西駅」まで、貸切モノレールに乗って、車内で絵本や「おはなし」を楽しみ、彩都の会場では「人形劇」を観ていただくお子様向けのイベントです。

5歳から小学校3年生までのお子様と保護者の方、あわせて240人を募集します。9月16日（土）で、参加費は、お一人500円（大人・子ども同額）

です。申込締切は9月4日（月）必着。詳細は↓↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/01_kids/index.html

● 第16回国際グリム賞 贈呈式・記念講演会 参加者募集

講 師：第16回国際グリム賞受賞者

ロバータ・シーリング・トライツ博士（アメリカ・イリノイ州立大学教授）

演 題：「児童文学をよむージェンダー、パワー、ケアの倫理の視点から」

通 訳：松下宏子さん（関西大学ほか非常勤講師）

日 時：10月1日（日）午後2時～5時

会 場：国民會館 武藤記念ホール（大阪府中央区大手前2）

定 員：100人（申込先着順）

参加費：無 料

主 催：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団／

一般財団法人 金蘭会／大阪府立大手前高等学校同窓会 金蘭会

お申込み、詳細は ↓↓

http://www.iiclo.or.jp/07_com-con/01_grimm/index.html

● 「第34回 日産 童話と絵本のグランプリ」作品募集

アマチュア作家を対象とした創作童話と絵本のコンテストです。構成、時代

などテーマは自由で、子どもを対象とした未発表の創作童話、創作絵本を募集しています。締め切りは10月31日(火)です。詳細は↓↓
http://www.iiclo.or.jp/07_com-con/02_nissan/index.html

● 研究紀要の原稿募集

当財団では論文集「大阪国際児童文学振興財団 研究紀要」第31号の原稿を募集しています。お申し込み、詳細は↓↓

http://www.iiclo.or.jp/06_res-pub/04_journal/boshu.html

◇「大阪国際児童文学振興財団 研究紀要 第30号」を販売しています。

発行：当財団 2017年3月 A5判156頁 1,400円+税

● Twitter はじめました

当財団公式 Twitter をはじめました。いろんな情報を発信していきます。

フォローしてください。 https://twitter.com/IICLO_News

● 寄付金を募集しています

当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募っています。寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に充てさせていただきます。ぜひ、ご協力いただきますようお願いいたします。

お申し込み、詳細は → <http://www.iiclo.or.jp/donation.html>

【2】コラム

《1》この本読んだ? Yasuko's & Yukiko's Talk

『宇宙をかきみだす 思春期文学を読みとく』 R・S・トライツ/著
吉田純子/監訳 人文書院 2007年3月(原書2000年)

対象年齢：大人

Y：大阪国際児童文学振興財団は一般財団法人 金蘭会、大阪府立大手前高等学校同窓会 金蘭会とともに、世界で優れた児童文学研究者を顕彰する「国際グリム賞」を授賞しています。第16回の受賞者はアメリカ合衆国のロバート・シーリング・トライツ博士に決まり、10月1日(日)にトライツ博士をお迎えして記念講演会「児童文学をよむージェンダー、パワー、ケアの倫理の視点から」を行います。(「1 お知らせ」欄参照)

今回は、トライツ博士の著書で邦訳のある本書を取り上げます。

F：思春期文学(ヤングアダルト=YA文学)の中で、若者たちがいかに政治や学校や家族や社会という権力(パワー)に振り回されているのかを読み解いた本として興味深く読みました。

Y：そして、この本では、YA文学の中で、権力にただ振り回されるだけの若者が描かれた作品でなく、「宇宙をかきみだす」力がある若者を描いた作品を評価しています。

F：多くの思春期文学では、若者は言葉によって縛られていると同時に、言葉を発することで、権力から抜け出したり、もっと強いパワーを持ったりするように描かれているという指摘も興味深かったです。

Y：ロバート・コーミアやヴァジニア・ハミルトンなど、邦訳のあるYA作

品も多く取り上げられており、評論付ブックリストとして読むこともできると思いました。

F：古典作品である『若草物語』や『あしながおじさん』も誰が権力を持っているか、どのように抑圧されているかという観点で分析されていて、思春期文学としての特徴が浮き彫りになっていました。児童文学と思春期文学の比較や、複数のYA作品の中で写真がいかに死を描くために効果的に使われているかの分析なども印象に残りました。思春期文学という存在そのものが一つのイデオロギー（思想）であるという点も納得しました。

Y：トライツ博士は、YA文学をさまざまな文学的理論を使って研究してきた第一人者です。新刊研究書もアメリカで近々出版されるとのことで精力的に研究活動をされています。

F：講演会では、宮崎駿のアニメーション「崖の上のポニョ」やアンデルセンの「人魚姫」をフェミニズムの視点から読み解かれる予定とのことで、楽しみにしています。

* 今回のゲストは武庫川女子大学准教授の福本由紀子さん（F）です。

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

第24回「イーハトーボ農学校の春」

歩行のリズムで

前回の「フランドン農学校の豚」（本メルマガNO.83参照）から思いついて、今回は、「イーハトーボ農学校の春」です。いまは秋ぐちなのに、春の話でごめんなさい。

「太陽マジックのうたはもう青ぞらいっぱい、ひっきりなしにごうごうごうごう鳴っています。」——これが書き出しで、つづいて、「太陽マジックのうた」の楽譜と歌詞が示されます。歌詞は、「コロナはしちじゅうろくまんにひゃく」。コロナは、太陽の光冠、太陽のまわりにできる光の輪で、100万度の高温だといえます。

きょうは、農学校の実習で、みんな黄色の実習服を着て、くずれかかった煉瓦の肥溜から、ひしゃくで桶に肥料を汲んで運ぶのです。「太陽マジックのうた」は、4分の2拍子ですから、一、二、一、二と歩くリズムです。これは、坂の下の麦畑まで天びん棒で肥料の桶を運ぶ生徒たちの歩行と重なってきます。

賢治の長詩「小岩井農場」の「パート四」にも、「あの四月の実習のはじめの日／液肥をはこぶいちにちいっぱい／光炎菩薩太陽マジックの歌が鳴った／（コロナは八十三万四百……）」と同様のモチーフが描かれています。「小岩井農場」は、車を降りて小岩井農場へと向かう語り手の歩行とともに展開する、まさに「心象スケッチ」です。

「イーハトーボ農学校の春」の冒頭には、「太陽マジックのうた」の4小節の同じメロディーが2回かかげられますが、その後は、ト音記号のあと、「……」があるだけの省略されたかたちで書かれます。そのト音記号は、のべ24回も出てきますから、4小節のメロディーは、何度もくりかえされる

ことになります。歌詞のほうは、「コロナは六十三万二百」「コロナは三十七万九千」「コロナは六十七万四千」……と、そのつど変わります。

農学校教師としての宮沢賢治の4年間は、「じつに愉快的明るいものでありました」（『春と修羅』第二集「序」）といます。その賢治を思わせる語り手が、生徒のひとりの「阿部君」に呼びかけるくだりがあったりして、ずいぶん明るい、あたたかな光のなかの物語です。（馬車別当）

（本文の引用は、筑摩書房版『宮沢賢治コレクション』5によりました。）

《3》 読書活動ボランティアのためのワンポイント 84

その11 さまざまなご質問にお答えします（2）おはなし会について

質問：図書館等のおはなし会で幼い子どもが増えていますが、おはなしをやめて絵本だけにすべきでしょうか。

絶対におはなしを入れるべきとまでは思いませんが、プログラムにおはなしが入ることで、絵本という一つのメディアだけでなく、語りのメディアでも物語が楽しめるようになるという意味では、おはなし会におはなしが入っていることの意義は大きいと思います。

幼い子ども（3、4歳）向けのおはなしもあります。たとえば「2ひきのよくばりこぐま」や「とりのみじい」「ねずみのすもう」など、比較的短いこと、登場人物が少ないこと、繰り返しがあってわかりやすいこと、オノマトペなどことばの響きが楽しいこと、会話がいきいきしていること、幼い子どもの経験とリンクすることができること、などがおはなしを選ぶ観点になります。

幼い子どもが多くても、熱心に聞き入っている少し年齢の高い子どもがいれば、幼い子どもはそれらの子どものことを見習い、聞き方を学びます。また、他のスタッフがおはなしを聞けない子どものサポートをすれば、おはなしを語る場は成立します。

低年齢といっても、0、1、2歳が中心になってしまうと、おはなしを語るより、わらべ歌やあそび歌と絵本中心のおはなし会になると思います。

*次号は「その11 さまざまなご質問にお答えします（3）」の予定です。

ぜひ、ご質問やご意見をお待ちしております。（Y）

《4》 行って来ました！

美術館「えき」KYOTOで8月27日まで開催されている「エリック・カール展」に行ってきました。

展示は、第1部「エリック・カールの世界」、第2部「エリック・カールの物語」に分けられ、初めての絵本の挿絵『くまさん くまさん なにみてる

の?』(ビル・マーチン/文 1967年)から、最新作『ナンセンス・ショウ』(2015年 未邦訳)までの原画や、ダミーブック、立体作品など約130点が展示されています。

会場に入るとすぐ、カラフルな動物の絵がいっぱい並んでいて、今にも動き出しそうでわくわくします。いろいろな色や模様で彩色された薄紙をコラージュした原画を初めて間近で見ました。ゾウの体やミミズクの翼など、いろんな色が混じり合っていてリアルに感じます。昆虫の羽や葉っぱなど、透きとおった色の重なり合いがとても美しいです。印刷された絵本で見るより、もっと色が鮮やかでした。

カールに影響を与えた画家へのオマージュとして描かれた作品も紹介されています。『えをかくかくかく』の青色の馬はフランツ・マルク、『うたがみえる きこえるよ』はパウル・クレー、『巨人にきをつける!』はレオ・レオニに捧げた作品です。レオニの『さかなは さかな』などの原画も展示されていて、見比べることもできました。

初期の版画作品や動物の素描もいくつか展示されています。動物のスケッチは力強く写実的で、動物たちのコラージュ作品の土台となっていることを感じることができました。(K)

【3】全国のイベント紹介

● 茂田井武 原画展「きつねのおつかい」にみる物語絵の魅力
新美南吉童話『きつねのおつかい』の原画と未刊行原画を紹介します。
期 間：8月22日(火)～9月18日(月・祝) 午前9時～午後7時
(土日祝および国際児童文学館は午後5時まで)

休館日：月曜日(9/18は開館)、9/14(木)

場 所：大阪府立中央図書館 (東大阪市荒本北)
1階展示コーナー／国際児童文学館内 小展示コーナー

入場料：無料

◇ 講演会「茂田井武の物語絵」

講 師：広松由希子(絵本研究家、作家)

日 時：8月26日(土) 午後2時～3時30分

場 所：大阪府立中央図書館 2階大会議室

定 員：70人

参加費：500円

共 催：大阪府立中央図書館 国際児童文学館／
大阪府立中央図書館指定管理者 長谷工・大阪共立・TRCグループ

● 街頭紙芝居イベント「むかしの紙芝居を楽しもう！」

現役の紙芝居師による紙芝居を、子どもも大人も楽しみましょう。

演 目：「女忍者」、「原子怪物ガニラ」ほか

日 時：9月2日(土) 午後3時30分～4時30分頃

会 場：大阪府立中央図書館 2階多目的室 (東大阪市荒本北)

参加費：無料

主 催：大阪府立中央図書館

共 催：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団
協 力：一般社団法人 塩崎おとぎ紙芝居博物館

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

【4】プレゼント

今号のコラム《1》「この本読んだ？」で紹介しました『宇宙をかきみだす 思春期文学を読みとく』を1名の方にプレゼントします。ご希望の方は、メールで件名「メルマガNO.84プレゼント希望」とし、(1)お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メールアドレス、よろしければ (5)このメルマガのご感想 をお書きのうえ office@iiclo.or.jp にお送りください。締切は9月11日(月)、当選発表は発送をもって代えさせていただきます／

編 | 集 | 長 | の | つ | ぶ | や | き |

熱帯夜は続くわ、早朝からジャンジャンと蝉の声で起こされるわで、寝不足になっている。来日されたタンザニアの絵本作家キラカさんは、「赤道のすぐ南にあるアフリカより暑い。厚手のジャケットを持って来たのに…」と大阪の暑さに驚いていた。

「大阪の夏は日本で一番暑く、おまけに人もアツイですから」と言いたいが、我が仮名まじり単語英語では通じるわけもなし。そうそう、タンザニアのセミは夕方鳴くらしい…。(A)

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまでお願いします。原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

- このメルマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。
- 配信の登録・解除・変更は、
http://www.iiclo.or.jp/m1_magazine/index.html パソコンからどうぞ
- このメールの送信アドレスは配信専用です。
- 記事の無断転載はご遠慮ください。

発行：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団 <http://www.iiclo.or.jp/>
〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北 1-2-1 大阪府立中央図書館内
TEL：06-6744-0581 FAX：06-6744-0582 E-mail：office@iiclo.or.jp
